



今は昔、^①竹取の翁といふ者ありけり。^②野山に

まじりて竹を取りつつ、^③よろづのことに使ひけり。^④名をば、さぬきのみや

つことなむいひける。

^⑤その竹の中に、^⑥もと光る竹なむ一筋ありける。^⑦あやしがりて、寄りて

見るに、筒の中光りたり。^⑧それを^⑨見れば、三寸ばかりなる人、^⑩いとうつ

くしうてゐたり。

- 問1 傍線部①「竹取の翁」と同じ人物を表す言葉を、本文中から抜き出せ。

さぬきのみやつこ

- 問2 傍線部②「野山にまじりて竹を取りつつ」の主語を表す言葉を、本文中から五字以内で抜き出せ。

竹取の翁

- 問3 傍線部③「よろづのことに使ひけり」の主語を表す言葉を、本文中から五字以上、十字以内で抜き出せ。

さぬきのみやつこ

- 問4 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」を、現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書け。

なをば、さぬきのみやつことなんいいける

- 問5 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」を、現代語訳せよ。

名前を、さぬきのみやつこといった

- 問6 傍線部④「名をば、さぬきのみやつことなむいひける」では、「なむ」があることで、文末は終止形「けり」ではなく、「ける」となっている。このような文法規則を何というか。4字で答えよ。

係り結び

- 問7 傍線部⑤「その竹の中に」を、指示語の内容を明らかにして、二十字以内で現代語訳せよ。ただし、主語を補う場合は、本文中の言葉を使用すること。

標
題
設
問

竹取の翁が分け入った野山にあった竹の中に

- 問8 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」を、現代仮名遣いに直せ。

もと光る竹なん一筋ありける

- 問9 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」を、現代語訳せよ。

根元の光る竹が一本あった

- 問10 傍線部⑥「もと光る竹なむ一筋ありける」とあるが、「ありける」の主語を、本文中から抜き出せ。

もと光る竹

- 問11 傍線部⑦「あやしがりて、寄りて見るに」の主語を補い、二十字以内で現代語訳せよ。ただし、主語は本文中から抜き出したものを使用すること。

竹取の翁が不思議に思って、近寄って見ると

- 問12 傍線部⑧「それ」の表す内容を、本文中から五字以内で抜き出せ。

もと光る竹

- 問13 傍線部⑨「見れば」の主語を、本文中から抜き出せ。

竹取の翁 もしくは さぬきのみやつこ

- 問14 傍線部⑩「いとうつくしうてゐたり」の主語を本文中から抜き出せ。

三寸ばかりなる人